

# この議会に向けて

埼玉県和光市議会議員 菅 原 満  
客員研究員

## ◆AI、IoT 進む情報システム

AI、IoT、電子マネーなど情報システムの進展に関する言葉が取り沙汰されています。自治体の行政においても、情報システム（機器、ソフト）の活用が急速に進んでいます。同時に、IoTにおいては、ハッキングといった危険性も指摘されています。

予算編成、予算執行、福祉、保険、住民情報などの各分野では、情報システムが活用され、情報システムなしには処理しきれない状況になっています。

予算額において、情報システム関係の割合も増えてきており、導入、更新の予算がどのような根拠で積上げられているのか、予算執行における見積りや契約内容はどうか、そして、システムが仕様通りに稼働したか、システムの保守更新内容、費用に関してどのようになっているのか、セキュリティの確保はどうかなど、確認しておくことが大切と考えます。

関連して、予算規則はもろろん、情報システムに関する例規などに関して、どのように定められているのか、その例規などがきちんと運用されているのか、形式に流れていないか、このような点についても再確認しておくことが挙げられます。

情報システムの調達・運用においては、予算執行に関して、仕様、契約、入札、安全性などがどのようになっているのか、予算執行に併せて一般質問で確認することも大切なことと考えます。また、他の自治体でのトラブル等を参考に、自分の自治体ではどうなっているのかを確認することも挙げられます。

## ◆予算審査と新公会計（決算も参考に）

予算と条例案の審査の議会です。この時期、同じような内容の繰り返しますが、各自治体の財政状況が経年でどうなってきたのか確認するとともに、国の財政運営の影響がどうなっているのか、あるいは、どのような方向へ進むのか確認しておくことが大切です。

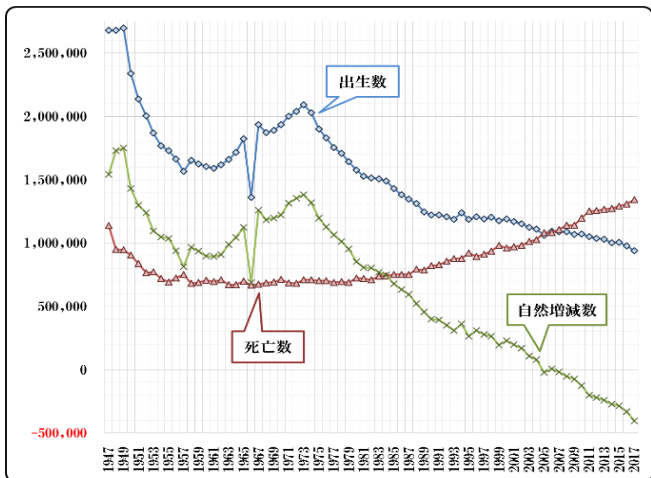
予算規模、歳入（財源）、歳出（行政需要）について、地方税や交付金の見込み、国県補助金の確保の状況、他の収入の見込みはどうか、税制度の見直しの今後の影響はどうなるのか、年度末・年度当初の資金繰りの見通しはどうか、歳出の財源見通しは事業毎でどのように予算立てしているのか、基金積立・繰入の状況はどうか、市債収入と公債費償還見通しはどうか、といった点について改めて確認することが挙げられます。

また、当初予算比だけではなく、この議会での補正予算を含めての平成29年度予算と平成28年度決算と突き合せて検討を加えることも挙げられます。当初予算比だけでは、掴めない予算の動きも見えてくるかと思えます。また、平成29年度の当初と補正予算の執行見込みも併せて確認

することも考えられます。さらに、企業会計、財政援助団体の経営状況、見通しはどのようになっていくのかも、当然確認する必要があります。

新公会計により作成された**四種類の財務指標**から、財政状況について確認を行うと共に、今後留意を要する点について、**予算や財政計画（財政運営）**にどのように反映させていくのかを併せて確認しておくことが考えられます。

◆**人口減少時代に突入！**



上のグラフは、厚生労働省の平成29年人口動態統計の年間推計から作成したものです。平成23年に微増でしたが、平成22年から人口減少がはじまり、平成29年には、**40万3千人の減少と推計**されています。

新公会計の整備導入の背景のひとつには、自治体の「ストック情報」の把握、また、行

政運営の費用と負担の把握も指摘されています。

人口減少・高齢化の傾向が続くことに対して、**公共施設等の維持更新や長寿命化**、さらには**統廃合**、そして、介護や保険といった社会保障の行政サービスと将来に向けた財源確保がどのようになっていくかということに関して、各自治体では、検討が進められているかと思えます。

この確認を改めて行うと共に、介護と医療の連携に関しては、介護保険などの保険料負担、サービス水準やサービスの供給体制のあり方やその確保（事業者の誘致）の見通しや課題について、介護保険事業計画や福祉予算の審査の中で確認しておくことが重要です。

◆**毎年同じですが繰返すこと**

各種の事業計画と予算の対応は、どのようになっていくのか、決算や平成29年度実績からみて、予算計上（積算根拠）が妥当なものか、将来負担はどのくらいなのかといった確認を事業ごとに観ていくことが挙げられます。自治体の規模、事業数によっては、主な事業を抽出して検討を加えて、確認していくことが考えられます。

公共施設等の長寿命化などでは、適債事業としての扱いがありますが、交付税算入、償還見通し、償還財源、他の事業とのバランス、そして、将来の財源確保や財政運営を睨んで進めていくことも大切かと考えます。経常・経常的な事業には、節減が難しい事業もあるかと思えますので、じっくり予算を眺めて審査に臨むことが肝要だと思います。